

第1部 就業構造基本調査の概要

I 調査の概要

就業構造基本調査は、昭和31年7月に第1回目の調査が実施されており、今回は第11回目の調査である。

1 調査の目的

就業構造基本調査は、我が国人口の就業・不就業状態に関する基本的な構造を全国及び地域別に明らかにして、経済計画をはじめ、雇用・失業対策など各種施策のための基礎資料をうることを目的としている。

2 調査期日

この調査は、昭和62年10月1日午前0時現在で実施した。

3 調査の範囲及び対象

この調査の三重県における地域的範囲は、調査期日現在における県の全域に及び、対象は、その地域内の全世帯及びその世帯に常住する15歳以上の者全員である。

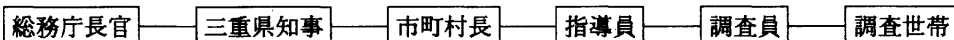
ただし、自衛隊の営舎内または艦船内居住者、刑務所、拘置所に収容されている者で、刑の確定している者及び少年院の在院者などの人々は含まれていない。

また、外国の外交官、外国軍隊の軍人、軍属及びその家族は調査の対象から除いた。

この調査は標本調査で、三重県に関しては、昭和60年国勢調査の調査区のうちから抽出された468調査区において、一定の方法で抽出された6,215世帯及びそれらの世帯に常住する15歳以上の者16,861人について行われた。

4 調査の方法

この調査は、次の系統によって行われ、調査票は世帯で全部記入する自計方式によった。



5 調査事項

次にかかげる調査票のとおりである。

指定統計第87号 昭和62年10月1日
就業構造基本調査調査票

◎15歳以上の各人について記入してください。総務庁統計局

この調査票は、統計以外の目的には使用しませんから、ありのままを記入してください。

○記入には必ず鉛筆を使用し、間違えた場合は消しゴムで消してください。
 ○答を記入する欄が□の場合は、▢のように横線を濃く記入し、各質問ごとに一つだけマークしてください。
 ○文字又は数字で回答する場合は、点線のわく内に記入してください。

書類番号
5

1 氏名及び男女の別	男 <input type="checkbox"/> 女 <input type="checkbox"/>	5 1年前にはどこに住んでいましたか	現在の住居 <input type="checkbox"/> 同じ市区町村内の別のところ <input type="checkbox"/> 同じ都道府県内の別の市区町村 <input type="checkbox"/> 他 都道府県 <input type="checkbox"/> 外国
2 世帯主との続き柄	世帯主又は世帯主の者 <input type="checkbox"/> 子の配偶者 <input type="checkbox"/> 父子 <input type="checkbox"/> 孫 <input type="checkbox"/> 父母 <input type="checkbox"/> 兄弟姉妹 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/>	6 教育	現在 学校に在学中かどうかについて記入した上で、欠印に従って記入してください。 卒業したのは最終卒業学校(中途退学した人はその前の学校)について記入してください。 予備校などは、ここでいう学校には含めません
3 出生の年月	明治 <input type="checkbox"/> 大正 <input type="checkbox"/> 昭和 <input type="checkbox"/> 年 月	6 教育 (続)	在学中 <input type="checkbox"/> 卒業 <input type="checkbox"/> 在学していない <input type="checkbox"/>
4 配偶者の有無	未婚 <input type="checkbox"/> 有配偶 <input type="checkbox"/> 死別 <input type="checkbox"/> 離別 <input type="checkbox"/>	6 教育 (続)	小学 <input type="checkbox"/> 中学 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 旧中 <input type="checkbox"/> 短大 <input type="checkbox"/> 高専 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 大教 <input type="checkbox"/>

問1 あなたはふだん何か収入になる仕事をしていますか

ここで「仕事をしている」とは、ふだん仕事をしており、今後もしていくことになっている場合をいいます。
 ・収入になる仕事には、家業(農業を含む)の手伝いや内職も含まれます

仕事をしている人
 家業(農業を含む)の手伝い 家業(農業を含む)の手伝い以外 家事をおもいで 家事をおもいで 通学をおもいで 通学をおもいで 仕事をおもいで 仕事をおもいで

仕事をしていない人
 家事をしている 通学している その他

・10月1日あるいはその前数日間、たまたま仕事をしていても「仕事をしていない」としますが、季節的な仕事や病気などでたまたま仕事を休んでいる場合は「仕事をしている」とします

おもな仕事に汚したり折ったり休んだり丸めたりしないで行ってください。	A ぶだん仕事をしている人	B ぶだん仕事をしていない人
	問2 勤めか自営かの別等	問2 あなたは何か収入になる仕事をしたいと思っていますか
	問2.2 勤め先における呼称	問3 どうして仕事をしたいのですか
	問3 勤め先・業主などの経営組織	問4 仕事をおもにしたいですか
	問4 本人の仕事の種類	問5 どのようなかたちで仕事をしたいのですか
	問5 勤め先・業主などの企業全体の従業員数	問6 その仕事を探したり開業の準備をしたりしていますか
	問6 この仕事の1年間の就業日数及び1週間の就業時間	問7 仕事を探したり開業の準備をしたりしていないのはどうしてですか
	問7 この仕事からの1年間の収入又は収益(税込み)	問8 どのような方法で探したり開業の準備をしたりしていますか
		問9 その仕事を探したり開業の準備をしたりしている期間はどれくらいになりますか

第2面 左欄 A ぶだん仕事をしている人へ

第2面 右欄 B ぶだん仕事をしていない人へ

3 出生の年月	年 (10のケタ) 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 月 (1のケタ) 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	5 都道府県	(10のケタ) 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 V (1のケタ) 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 V
世帯番号	(10のケタ) 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 (1のケタ) 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	総務庁統計局	A問3(3) 産業
世帯員番号	(10以上) 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	調査区符号	A問4 職業
調査区符号	この世帯の調査票 枚のうち 枚目		

A ふだん仕事をしている人 (第1面から続いて記入)

問8 あなたはこの仕事を今後も続けていくつもりですか
 ・同じ会社で配置や勤務地を変わりたい場合は「この仕事を続けたい」とします

問8の2 この仕事で就業時間を増やしたいと思っ
ていますか

問9 どうしてほかの仕事
に変わりたいのですか
 ・おもなもの一つだけ
マークしてください

問10 どのようなかたちで
仕事をしたいのですか
 ・おもなもの一つだけ
マークしてください

問11 その仕事を探したり
開業の準備をしたり
していますか

問12 あなたはおもな仕事
のほかに別の仕事も
していますか

問13 その仕事の
勤めか自営かの別

問14 勤め先・業主などの
事業の種類

問15 おもな仕事以外の仕事
からの1年間の収入又は
収益(税込込み)
おもな仕事以外の仕事で200万円以上ある
場合は合算して記入してください

問16 あなたが現在している
おもな仕事は1年前に
もしていたのですか
 ・現在しているおもな仕事は問2～問7
までに記入した仕事のことです
 ・同じ会社で配置や勤務地が変わったよ
うな人は「1年前にも現在の仕事を
していた」とします

問16の2 この仕事を何年間し
ているのですか
 6か月以上の端数は
1年と数えます

問16の3 この1年間に勤め先の
都合による一時休職で
1日以上休んだことが
ありますか

問17 1年前にはおもに何を
していたのですか

問18 どうして現在の仕事に
ついたのでですか
 おもなもの一つだけ
マークしてください

問19 現在の仕事につく以前
に何か別の仕事をして
いたことがありますか

B ふだん仕事をしていない人 (第1面から続いて記入)

問10 仕事があればすぐ
つくつもりですか

問11 あなたは1年前に
も仕事をしていな
かったのですか

問12 今までに何か仕事
をしていたことが
ありますか

C 前の仕事について

問1 前の仕事をいつや
めたのですか

問2 どうして前の仕事
をやめたのですか
 ・おもなもの一つだけ
マークしてください

問3 前の仕事の
勤めか自営かの別

問4 勤め先・業主など
の事業の種類

問5 本人の仕事の種類

問6 勤め先・業主などの
企業全体の従業員数

問7 前の仕事は何年間
続いていたのですか
 ・6か月以上の端数は
1年と数えます

D 世帯主について

問1 世帯の収入の種類
・世帯全体の収入について
記入してください
(おもなもの一つ)

問2 世帯全体の年間収入
(税込込み)

調査員記入欄

A 現職の問16の2継続年数 (10のケタ)

C問1 前職の離職年 (10のケタ)

C問7 前職の継続年数 (10のケタ)

電話 ()

調査員記入欄

世帯人員(世帯主調査票のみ)

0歳	1人	2人	5歳	1人	2人	10歳	1人	2人	・同じ年齢の15歳未満の 人が3人以上いる 場合は年齢と人員を 下に書いてください		
1歳	1人	2人	6歳	1人	2人	11歳	1人	2人			
2歳	1人	2人	7歳	1人	2人	12歳	1人	2人			
3歳	1人	2人	8歳	1人	2人	13歳	1人	2人			
4歳	1人	2人	9歳	1人	2人	14歳	1人	2人			
15歳未満の合計	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10人以上
15歳以上の合計	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10人以上

総務庁統計センター

A問14 産業

C問4 産業

C問5 職業

この調査票は機械にかけますので汚したり折ったり丸めたりしないでください。

II 主な用語の説明

1 世帯

同居と生計を共にしている2人以上の人の集まりを1つの世帯（一般世帯）とした。

また、1人で1戸をかまえている人、間借りをして1人暮らしをしている人、あるいは寄宿舍、下宿などに集まって住んでいる単身者の1人1人も、それぞれ1つの世帯（単身世帯）とした。

2 年齢

昭和62年10月1日現在の満年齢をいう。

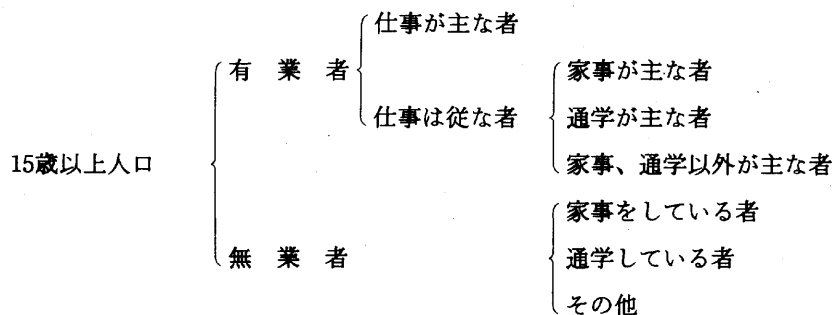
3 1年前との常住地移動状況

現在の常住地と同じ者……1年前に住んでいた所と同じ所に現在も住んでいる者をいう。

現在の常住地と異なる者（常住地移動者）……1年前に住んでいた所と現在住んでいる所が異なっている者をいう。

4 就業・不就業状態

15歳以上の者について、昭和62年10月1日現在のふだんの就業・不就業状態によって次のように区分した。



〈就業・不就業状態のとらえ方〉

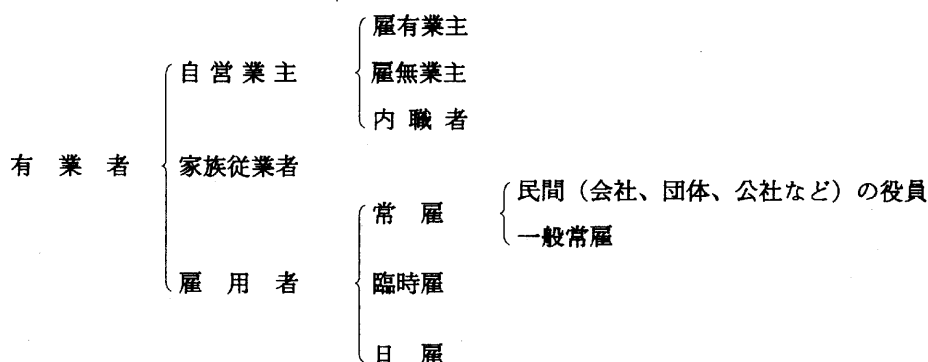
国勢調査や労働力調査が特定の1週間の状態によって就業・不就業状態をとらえているのに対し、この調査では、特定期間の状態によるものでなく、ふだんの状態として仕事をしており、今後もその仕事を続けるかどうかによって就業・不就業をとらえている。

有業者……ふだんの状態として、収入を得ることを目的とした仕事を続けてしており、10月1日以降も続けていくことになっている者及び仕事をもっているが現在は休んでいる者をいう。無給の家族従業者も、ふだんの状態として仕事に従事していれば有業者となる。

無業者……ふだん収入を得ることを目的とした仕事をもっていない者をいう。すなわち、ふだん全く仕事をしていない者と、仕事をしてもときたま臨時的にしかしない者をいう。

5 従業上の地位

ふだん働いている事業所における地位によって、次のように区分した。

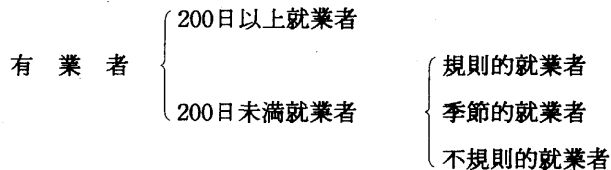


注）雇用形態の一つである「人材派遣企業の派遣社員」とは、労働者派遣法に基づき労働大臣の許可を受け、又は届出を

した企業から派遣される社員をいう。取扱うことのできる業務は、「電子計算機等の事務用機器の操作」など16種に限定されている。例えば、民営の職業紹介機関やシルバー人材センターなどの紹介による場合や請負、出向等は、形態は似ていてもこれに該当しない。

6 年間就業日数、従業状況及び週間就業時間

有業者を年間就業日数により次のように区分した。



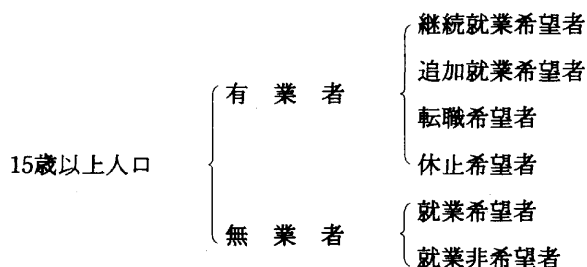
週間就業時間は、200日以上就業者並びに200日未満就業者のうちの規則的就業者について調べており、就業規則などで定められている時間ではなく、ふだんの1週間の実労働時間によっている。

7 所得

自営業主の所得……過去1年間に事業から得た収益、すなわち売上総額からそれに必要な経費を差し引いたものをいう。
 雇用者の所得……賃金、手間賃、諸手当、ボーナスなどの過去1年間に得た税込みの給与総額（現物収入は除く）をいう。
 世帯主所得……世帯主の仕事からの収入総額をいう。したがって本業以外の仕事からの収入も含まれる。
 世帯所得……すべての世帯員の過去1年間の収入（税込み額）の合計をいい、仕事からの収入、年金、恩給などの給付金、配当、利子、家賃、地代などの財産収入、その他仕送り金などの総額をいう。なお、相続、贈与、退職金など、経常的でない収入は含まれない。また、営業使用人及び家事使用人の収入は含まれない。

8 就業・不就業希望意識

希望意識は15歳以上人口について次のように区分した。



継続就業希望者……現在もっている仕事を今後も続けたいと思っている者のうち、次の「追加就業希望者」に該当しない者をいう。

追加就業希望者……現在もっている仕事は続けるが、そのほかに副業とか内職として別の仕事もしたいと思っている者をいう。

転職希望者……現在もっている仕事をやめて、ほかの仕事に変わりたいと思っている者をいう。

休止希望者……現在もっている仕事をやめようと思っており、もう働く意志のない者をいう。

就業希望者……何か収入になる仕事をしたいと思っている者をいう。

就業非希望者……仕事をしたいと思っていない者をいう。

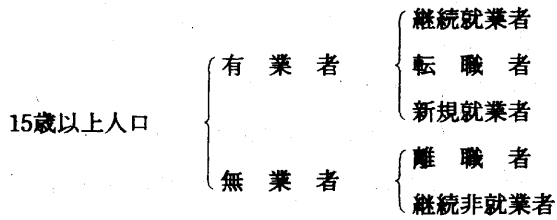
9 求職・非求職の別

追加就業希望者、転職希望者及び就業希望者については、実際に仕事を探したり、準備したりしているかどうかによって、「求職者」と「非求職者」とに区分した。

ここで、仕事を探したり、準備したりしているというのは、直接または間接に人に頼んだり、公共職業安定所に申し込んだり、新聞の広告に応募したりしている場合や、事業を始めるために資金や資材の調達など事業を開始するのに必要な準備活動を行っている場合である。

10 1年前との就業状態の異動

1年前との就業状態の異動は、現在と1年前との就業・不就業状態及び仕事の異動の有無によって次のように区分した。



継続就業者……1年前にも現在と同じ仕事に就業している者をいう。

転職者……1年前の仕事と現在の仕事とが異なっている者をいう。

新規就業者……1年前には仕事をしていなかったが、この1年間に現在の仕事についた者をいう。

離職者……1年前には仕事をしていたが、現在は仕事をしていない者をいう。

継続非就業者……1年前も現在も仕事をしていない者をいう。

11 継続就業年数

現在の仕事を始めてからの年数をいう。雇用者は、途中で勤務地や職種が変わってもその勤め先に勤め始めてからの年数とした。

なお、季節的に休む仕事であってもその仕事を年々繰り返している場合は休んだ期間も含めた。

III 結果数字の算出方法及び精度

結果数字の算出は、昭和62年10月1日現在における推計人口を用いる比推定の方法によった。この方法による結果数字には、次のような標本誤差がある。

標本誤差は、全数調査を行って得られる結果の存在範囲を示す目安となるものである。

すなわち、結果数字の前後にそれぞれ標準誤差の幅をとれば、その範囲内に全数調査から得られるはずの値があることが約2/3の確率で、また標準誤差の2倍の幅をとれば、その範囲内に全数調査から得られるはずの値があることが約19/20の確率で期待できる。

なお、下記の表は推計値の大きさごとの平均的な標本誤差の大きさを示したものである。推計値が小さい項目は一般に精度が低いので、利用にあたっては十分留意する必要がある。

結果数字の大きさ別平均標本誤差

結果数字の大きさ (千人)	標準誤差 (千人)	標準誤差率 (%)	結果数字の大きさ (千人)	標準誤差 (千人)	標準誤差率 (%)
800	6.5	0.8	40	1.7	4.2
700	6.1	0.9	30	1.5	4.9
600	6.0	1.0	20	1.2	6.2
500	5.3	1.1	10	0.9	9.0
400	4.7	1.2	9	0.9	9.6
300	4.2	1.4	8	0.8	10.2
200	3.5	1.7	7	0.8	11.0
100	2.5	2.5	6	0.7	11.9
90	2.4	2.7	5	0.7	13.2
80	2.3	2.9	4	0.6	14.9
70	2.2	3.1	3	0.5	17.5
60	2.0	3.4	2	0.4	21.8
50	1.9	3.7			

注1) 上記の「標準誤差率」は、項目ごとの標準誤差率を曲線のあてはめにより、平均的に評価したものである。

注2) 上記の「標準誤差」は、「結果数字の大きさ」に「標準誤差率」を乗じたものである。

IV 利用上の注意事項

1. 統計表の数字は、千位未満を四捨五入したものであるため、総数の数字はその内訳の合計に必ずしも一致しない。なお「0」又は「0.0」は、四捨五入の結果、表章単位に満たない場合である。
2. 統計表の数字は、総数に「不詳」の者が含まれているので、内訳の合計に必ずしも一致しない。
3. 統計表中「－」印の箇所は、該当数字がない場合又は平均の算出に当たって除数が0の場合である。
4. 統計表中「…」印の箇所は、平均の算出に当たって四捨五入の結果、除数が表章単位（千人）に満たない場合（0を除く）である。